

平成29年11月24日

久留米市議会議長 佐藤 晶二 様

議会広報委員長 山下 尚

委員派遣実施報告書

本委員会は、次のとおり委員派遣を実施しましたので、報告書を提出します。

記

- 1 日 程 平成29年11月15日（水）～17日（金）
- 2 派遣先 東京都町田市：議会広報及び議会ICT化の取り組みについて
及び内容 東京都立川市：議会ICT化の取り組みについて
- 3 派遣委員 委 員 長 山下 尚
委員長職務代理者 森崎 巨樹
委 員 山田 貴生 早田 耕一郎
- 4 報告書 視察報告書のとおり
- 5 その他 随行 志岐 明洋
折田 由紀美

視察報告書

委員会名	議会広報委員会
視察日時	平成 29 年 11 月 15 日 (水) 午後 2 時 00 分 ~ 午後 4 時 30 分
視察先・概要	東京市町田市 人口：約 42 万 9 千人 面積：71.80 k m ²
視察内容	議会広報及び議会 I C T 化の取り組みについて
選定理由	全国的にも議会改革を積極的に推進している先進市が取り組まれている議会広報及び議会 I C T 化について、本市が今後取り組む参考とするため。
調査概要	町田市議会において、町田市議会事務局 樋口課長の挨拶に引き続き、町田市議会事務局 佐藤担当課長より、議会広報及び議会 I C T 化の取り組みについての説明を聴取し、質疑応答を行った。
調査内容	<p>町田市議会では、平成 10 年より町田市議会改革（活性化）において、さまざまな取り組みを進められており、議会広報についての取り組みも先進的に進められている。</p> <p>主な取り組みとしては、議会広報紙の読者増及び議会情報発信の二つの取り組みを進められている。</p> <p>議会広報紙の読者増の取り組みとして、平成 28 年から議会広報紙を公共施設や駅、郵便局、大学等のほか、スーパーマーケットに設置するなど配付拠点を拡大されている。平成 29 年からは銭湯にも設置を拡大されている。また、登録されている全国の広報紙を無料で閲覧できるスマートフォン・タブレット用アプリ「マチイロ」や地域特化型電子書籍ポータルサイト「TAMAebooks」に議会広報紙を掲載し、電子データでの閲覧対応にも力を入れられている。</p> <p>議会情報発信の取り組みとして、ツイッターによる情報発信や、パンフレット「町田市議会を傍聴しに行こう」を町内会・自治会の掲示板に掲載されている。ほかにも、民間路線バスやコミュニティバスに市議会のポスターを掲示するなど、議会を傍聴してもらうことを目的としたさまざまな取り組みを進められている。</p> <p>議会 I C T 化の取り組みとしては、平成 28 年 6 月にタブレット端末を導入されており、同年 12 月議会より運用を開始されている。</p>



<視察の様子：町田市>

主な質問・応答

問：町内会へのパンフレット配布やマチイロの導入などにより、傍聴者数やホームページ閲覧数は増加したのか。

答：毎年 12 月定例会中に傍聴者へアンケートを実施しており、ポスターを見て傍聴に来たという方が複数いらっしゃるのので、効果はあると考えている。ホームページについては、請願が提出されると閲覧数が増加する傾向にある。

問：情報公開するチャンネルは、ツイッターなのか、ツイッターを介したホームページの充実を目指しているのか。

答：ツイッターだけでつぶやかず、必ずホームページとツイッターのセットで更新することを全庁的な方針としている。

問：タブレット端末で利用する文書共有システムを、モアノート（富士ソフト社）にされた理由は何か。

答：カレンダー設定ができ、タブレット端末に不慣れな議員もカレンダーから入れば分かりやすい構造であったため。

問：一般質問の際の、タブレット端末の活用方法はあるか。

答：議員が撮影した写真などを、議場のスクリーンに映したりしている。一般質問の紙資料は、傍聴者配布用だけでよくなった。



<集合写真：町田市議会議場>

その他（意見・感想）

広報紙、ホームページだけでなくツイッターなどのSNSやアプリの活用による議会情報発信については、若者世代などをターゲットとして有効な手段の一つではないか。また、町内会や自治会の掲示板等への掲載も傍聴者をふやす効果が見られたということで、本市でも検討する価値があると思われる。今後は、情報発信だけではなく、町田市のように傍聴者へアンケートを実施するなど、議会へのニーズを把握する広聴の取り組みも必要であると感じた。

視察報告書

委員会名	議会広報委員会
視察日時	平成 29 年 11 月 16 日 (木) 午後 1 時 30 分 ~ 午後 3 時 40 分
視察先・概要	東京都立川市 人口：約 18 万 2 千人 面積：24.36 k m ²
視察内容	議会 I C T 化の取り組みについて
選定理由	議会において、全国的にも早期にタブレット端末を導入している先進市であり、活用方法について、本市が今後取り組む参考とするため。
調査概要	立川市議会において、立川市議会事務局 川瀬次長の挨拶に引き続き、立川市議会事務局 山口係長より、議会 I C T 化の取り組みについての説明を聴取し、質疑応答を行った。
調査内容	<p>立川市議会では、平成 26 年 9 月にタブレット端末を導入されている。採用されているクラウド情報共有システムは、SideBooks（東京インタープレイ社）で、議員及び事務局分の 33 ユーザ、執行部分 67 ユーザの合計 100 ユーザ分のアカウントを取得されている。</p> <p>クラウドへの資料のアップロードは、行政の各担当課が各々でされており、議会事務局ではアップロードされた資料のチェックをされている。閲覧については、議員はタブレット端末、行政側は庁内で使用しているパソコンで行われている。</p> <p>導入後より段階的にペーパーレス化を図られているが、紙資料との併用の状態が続いているため、効果は限られているとのことであるが、導入前は全議員に配付していた資料を、導入後は会派に一部配布するなど、資料の作成部数の削減が進められている。</p> <p>また、ツイッターによる議会の情報発信にも取り組まれている。</p>



<視察の様子：立川市>

主な質問・応答

問：タブレット端末を導入したことにより、議員の政策立案や提案能力につながったか。

答：タブレット端末の携行により、どこでも資料検索が可能となったため、環境自体は向上していると思われる。

問：導入効果として、最も大きく得られた効果は何か。

答：行政各課がこれまで机上に配布していた紙資料を、システムに格納することで、配付の手間が削減できたことが一番の効果と思っている。

問：導入後に、使用基準を見直した内容はあるか。

答：タブレット端末を海外に持ち出されたときに、通信料が増加したため、国外での使用制限を追加した。

問：ツイッターによる議会情報の発信をされてあるが、どのような効果があり、どのような課題があるのか。

答：効果は特に把握はしていないが、課題としてフォロワー数が伸びないこと、発信している情報が定型的になっていることなどがある。



<集合写真：立川市議会議場>

その他（意見・感想）

タブレット端末の導入から3年程度が経過する中、現在も紙資料との並行が続いている状況で、ペーパーレス化を行うには、計画の策定と段階的な取り組みが重要だと感じた。また、クラウドへのアップロード手順を策定し、行政各課が各々でアップロードをされている運用は、導入効果が大きいと見たため、本市の性質に見合う運用かを考慮し、今後の運用改善の参考にしたいと思った。